



神山天文台マスコットキャラクター
ほしみ〜るちゃん®

Schedule 今月の開館スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3 オープンキャンパス (10:00 ~ 15:00)	4	5	6	7	8	9
10 ×	11	12	13	14	15	16
17 ×	18 × 敬老の日	19	20	21	22	23 秋分の日 サタデージャンボリー (9:30 ~ 15:30)
24 ×	25	26	27	28	29	30 中秋の名月

施設見学 9:00 ~ 16:00
土曜日は天体観望会実施日のみ 14:30 ~ 17:30

天体観望会 19:00 ~ 21:00
(定員あり / 要予約)

× 休館日

月の形 (満月・新月・半月および
観望会で月が見えるとき)

事務室閉室日
(問い合わせ等対応不可)

施設見学

1階常設展示フロアでは「望遠鏡 × 宇宙探査」、また、3階では荒木望遠鏡 (国内私立大学最大口径の反射式望遠鏡) の見学が可能です。

天体観望会

荒木望遠鏡や小型望遠鏡で天体を観察することができ、天文台専門スタッフが望遠鏡や天体について解説を行います。また、宇宙の3D映像上映会を開催します。(23日は祝日のため天体観望会は休止)

よくある質問

観望会でよく聞かれる
質問にお答えします★

「夕方に見える明るい星」はなに??

ときどき、お電話でもいただく質問です。星座を形作る「恒星」は、「日付・時刻・方角」の組み合わせで必ず見つかります。また、「惑星」は、時期によって見える / 見えないがあるため、明るさに加えて色もヒントに見当をつけていきます。光がゆっくり動くようであれば飛行機や人工衛星 (国際宇宙ステーションなど) の可能性もありますので、まずはじっくり観察してみてくださいね。

夏の大三角はまだ見える? 肉眼で探せる秋の星座の見どころは?

夏の大きな星座を夜の早い時間帯に見るなら、夏よりも秋の方が適しています。寒くなっても年内は頭の真上~西の空に見えていますので、まだまだ楽しめます。また、「秋の四辺形」または「ペガサスの四辺形」と呼ばれる大きな四角形の星の並びが頭上に目立っています。「秋」の星の中で明るい一等星は南の空の「フォーマルハウト」ただ一つで少し寂しい感じもする空ですが、探してみてください。

秋分の日ってどのように決まるの??

地球から見て、「太陽の通り道」である「黄道」と、地球の赤道を空へと延長した「天の赤道」が交わる点が、「春分点」と「秋分点」です。ここを太陽が通過する瞬間を含む日が「春分の日」「秋分の日」です。祝日としての春分の日・秋分の日は、国立天文台が計算し、前年の2月1日に、「暦要項 (れきようこう)」として官報に掲載されることによって、正式決定となります。

神山天文台サポートチームが活躍!

学内外イベントのご案内

お出かけしやすい秋は、イベントもたくさん! 神山天文台サポートチーム (通称神サポ) が子ども向けの体験イベントに出展予定です。ぜひご参加ください! (詳しくは各イベントHPを参照ください)

サタデージャンボリー 2023

「太陽系について知ろう!」

日時: 9月23日 (土祝)

午前の部 9:30 ~ 12:00 午後の部 13:00 ~ 15:30

会場: 京都産業大学 神山天文台

対象: 小学生以下 先着各部 1,000人

青少年のための科学の祭典 京都大会

「星座万華鏡を作ろう!」

日時: 11月11日 (土) 12日 (日)

10:00 ~ 16:30 (12日は16:00まで)

会場: 京都市青少年科学センターおよび
京工コロジセンター

中秋の名月

お月見の季節がやってきた! 月がとってもきれいだね。

お月見は旧暦の8月15日に月を鑑賞する行事のことで...

旧暦 3日 8日 15日

昔は月のみちかけを元に日付を決めていたんだけど、今は違うんだ。

今は地球が太陽の周りを回る周期を基に決めているんだよ。

1年 = 地球が太陽の周りを1周する時間 1日 = 太陽を基準に地球が1回転自転する時間

※イメージ

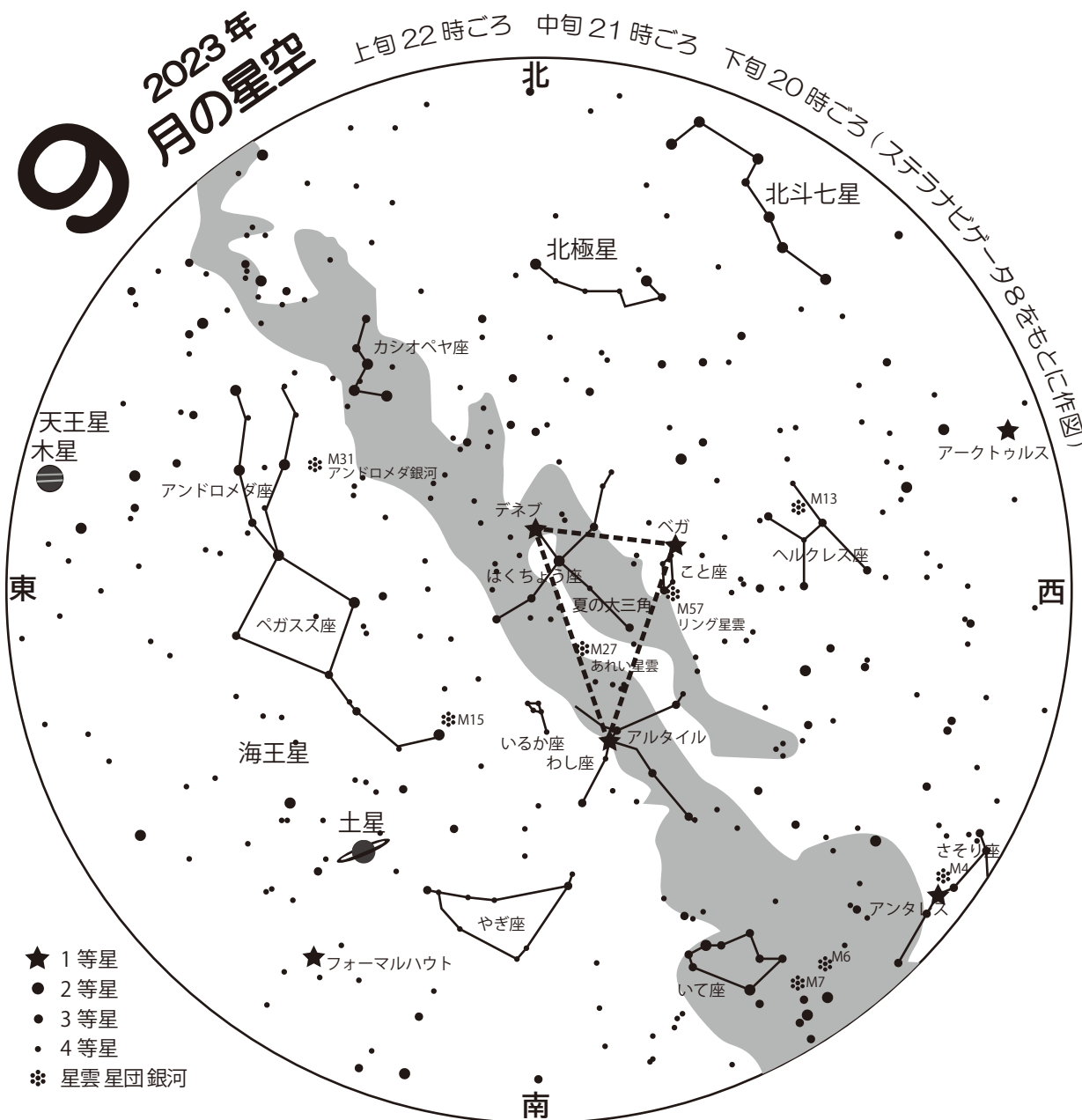
今年は、9月29日が旧暦の8月15日にあたります! ぜひお月見してみてくださいね♪

9月 September

1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	★	31			



2023年9月 見ごろの天体



9月29日 中秋の名月～中秋？仲秋？～

「中秋の名月」とは、旧暦8月15日の月をながめる行事です。旧暦では、7、8、9月を「秋」としており、8月15日はその真ん中なので「中秋」です。「仲秋」は秋の真ん中の月、8月を指す言葉です。「名月」という言葉を「満月」と解釈すれば、「仲秋の名月」でも間違いとはいえないですが、もともとの「8月15日の月」という言葉からすると、「仲秋の名月」よりは、「中秋の名月」の方がより正しい、ということがいえると思います。また、新月から満月までの期間は必ずしも15日とは限らないため、中秋の名月の日と満月の日がずれることはしばしば起こります。今年中秋の名月は9月29日、満月も同日です。

★土星 (どせい) : Saturn

太陽系の惑星で木星に次いで2番目に大きい土星は、大きな環が特徴的なとても美しい天体です。黄色っぽく輝き、環に加えて土星の周りを回る衛星も望遠鏡を使うと見ることができます。土星の環は、主に直径数cmから数mの氷の粒の集まりで、ところどころに隙間が見られます。環の厚みは数10mから数100mほどしかありません。

★海王星 (かいおうせい) : Neptune

海王星は、地球と太陽の間の距離の約30倍(約45億km)も太陽から離れて回る惑星です。肉眼で見えることはできませんが、大気に含まれるメタンが赤い光を吸収するため、望遠鏡でのぞくと青色っぽく見えます。

★夏の三大角 (なつのだいさんかく) : The summer triangle

はくちょう座のデネブ、わし座のアルタイル、こと座のベガの3つの明るい星を結んで描かれる大きな三角形は夏の三大角と呼ばれています。ベガとアルタイルは、七夕の伝説における「織姫」と「彦星」です。

★二重星 (にじゅうせい) : Double star

二重星は、肉眼では1つの星ですが、望遠鏡で見ると2つの星に見える星です。はくちょう座のくちばしに輝くアルビレオは、望遠鏡で見ると金色と青色の2つの星が寄り添って見える二重星です。2つの星の色の違いは、星の表面温度の違いを表しており、青い方が温度が高い星です。また、詳しい観測によると、金色の星は、少し暗い別の星と連星系になっています。こと座には、二重星がさらに2つずつの二重星となっている、ダブル・ダブル・スターと呼ばれる星があります。

★球状星団 (きゅうじょうせいだん) : Globular cluster

ペガス座のM15、みずがめ座のM2、ヘルクレス座のM13などの球状星団が見られる季節です。球状星団は、数十万の恒星の集まりです。夜空が暗く澄んでいる晩に荒木望遠鏡をのぞくと、最初はぼんやりとしか見えないかもしれませんが、目が慣れると、まるで黒い画用紙の上に白い砂粒をまいたように見える姿は圧巻です。